

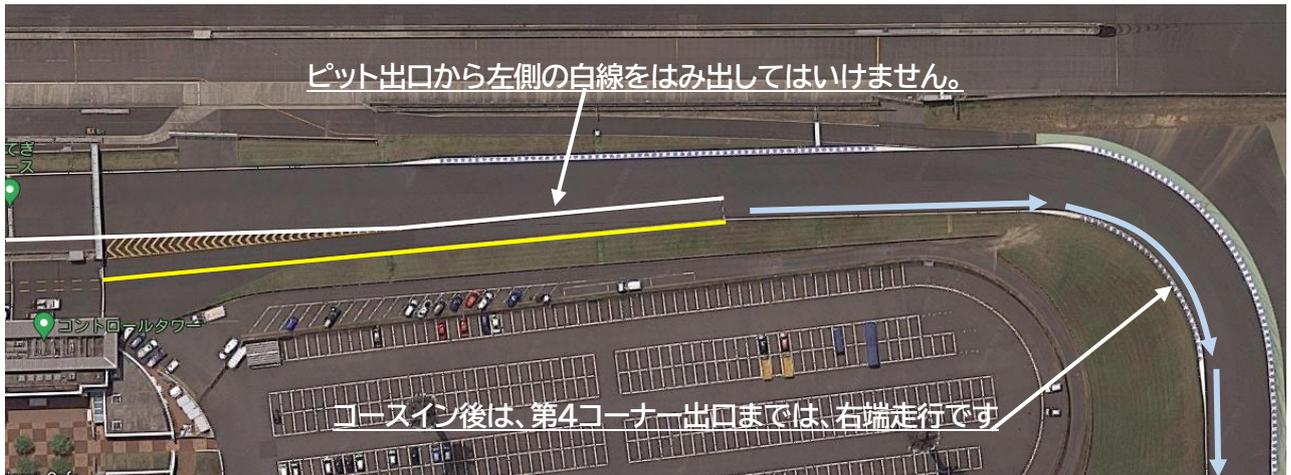
ツインリンクもてぎ サーキットライディングマニュアル

2021年7月20日 発行

- ① サーキット走行する際は、定められた**規則を熟知**し、当該施設の指導員・係員、オフィシャル等の指示に従わなければなりません。走行する全てのライダーがルールを守ることで、より安全にモータースポーツを楽しむことができます。
- ② **走行に際して起こった負傷や損害等は、参加者自らが責任を負うものとします。**
- ③ ピットレーンを含むレーシングコース内は、**一方通行**です。
- ④ ピットレーンの制限速度は、**60km/h**です。
- ⑤ ピットレーンにおいては、ピットインする車両および、先にピットレーンを走行している車両に優先権があります。



- ⑥ コースインする際は、「PIT EXIT」のシグナルが「**グリーン**」の時のみ可能です。
- ⑦ コースインする際は、ピットレーン出口から 1 コーナー手前にある左側の**白線をはみ出して走行してはいけません**。これは、高速で通過する車両と、低速で走行するコースイン車両の接触を防ぐためです。



- ⑧ コースインするときは、ピット出口から 1 コーナー付近までは、**手を挙げる**などして走行中のライダーに合図を出し、自身も周辺の安全を目視確認すること。
- ⑨ ピットレーンを出て第 4 コーナーを立ち上がるまでコースの右端を走行し、後方から近づく車両の走行を妨げないようにしてください。また、十分な速度まで加速してからレコードラインに合流してください。
- ⑩ サーキット走行においては、基本的に**レコードラインを走行する車両が優先**です。
- ⑪ スロー走行中のライダーは、レコードラインを走行するライダーを妨げてはならない。スロー走行とは、ライダー、マシントラブル、サーキット初心者 of 走行 / 慣らし走行中の者 / コース慣熟走行中 / 下見走行の事をいう。スロー走行車は基本的にはコースのピット側を走行する。**(もてぎの場合は右側走行)**

⑫ 走行中に車両トラブルが出たら……

・手を挙げて周辺にアピール⇒ 後方の安全を確認⇒ 車両をコース右端ラインに変える。



⑬ ピットインするライダーは、
V字コーナー立ち上がりよりラインを右端に寄せ、
手でピットインの合図を行った後、安全を確保しピット
ロードまでスピードを抑え走行してください。



ピットインする車両は、90度コーナー立ち上がりより、
コース右端を走行し、ピットインロードに侵入をしてく
ださい。

ピットインする際は、レコードラインを走行する車両
に対し、手を挙げるなどの合図を出してください

※90度からヴィクトリー区間はレコードラインと
接近するポイントがあるので注意して走行してく
ださい。



ピットレーンは以下のように区分されます。

A：ファストレーン（走行レーン）

B：補助レーン（オフィシャルの待機）

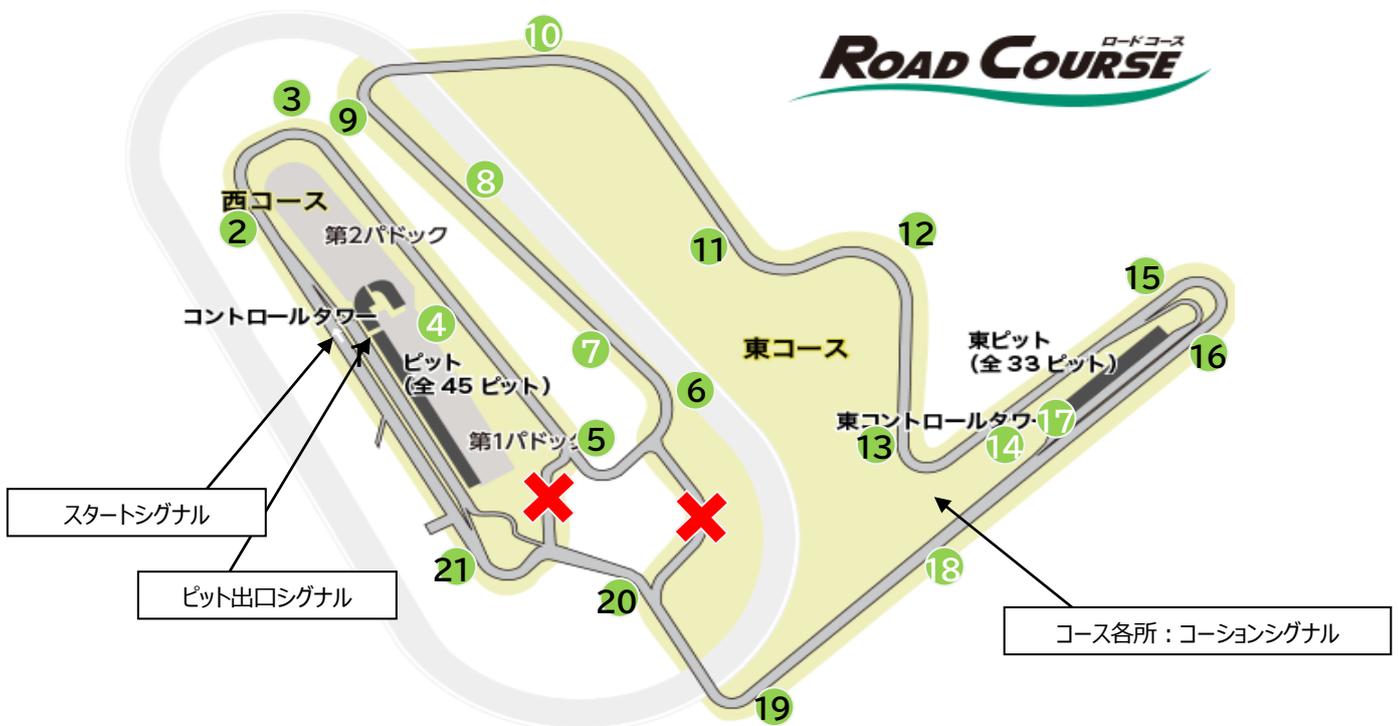
C：作業エリア（ワーキングスペース）

作業エリアを走行することは禁止です。（左図のピットガレ
ージ側のレーン）

⑭ 走行に際して起こった負傷や損害等は、参加者自らが責任を負うものとします。

1. 走行中の遵守事項

- ① 高速で走行するライダーの皆さんへの情報伝達は、**フラッグ・灯火信号（信号機）・ゼッケンボード**にて告知されます。
- ② 各表示物は、監視ポストから提示されます。
- ③ ライダーは提示される**公式シグナルを確認する義務**があります。走行中、オフィシャルが公式シグナルを示した場合、各ライダーはそれに従わなくてはなりません。無視した場合には重大な罰則が科せられる場合があります。
- ④ スポーツ走行では、**黒文字のポストのみ**オフィシャルが待機します。
- ⑤ スポーツ走行や、スクール開催時は、コースインの **1 周目は待機ポストから「緑旗」が静止表示**されますので、どのポストからフラッグが出されるか目視確認をしてください。



- ⑥ 不必要な急減速は追突される恐れがあります。特にストレートではトラブル時以外は急激にアクセルを戻さないようにすること。
- ⑦ いかなる場合も、**逆方向への走行あるいはコース外を走行してはいけません。**
- ⑧ 西ショートカット、東ショートカットの走行は禁止です。（図の×の箇所）
- ⑨ ストレートでは、前車を追い越す**以外の目的で進路を著しく急激に変更することは禁止**です。
- ⑩ 異なる排気量や競技車両の特性により、トップスピードに大きく差があるため、スリップストリームにつくのは大変危険です。追突しないよう十分注意してください。
- ⑪ 他のライダーの走行を妨害するような走り方をしてはいけません。
- ⑫ 必要以外にハンドルから手を離したり、足をステップから離し、また外に突き出したりするような危険な姿勢はとらないでください。

2. ピットクルー（お手伝いの方）

- ① 安全上、長袖・長ズボンなどの適切な服装を着用するようにしてください。
特にサンダル等かかとのない履物でピットロードに出るのは、禁止です。
- ② ピットクルーも参加する走行に関する規則を熟知し、常に安全に対する認識を持ってください。
- ③ ピットイン・ピットアウト車両に十分注意してください。
- ④ ピット内は火気厳禁です。特に喫煙は指定の場所でおこなってください。
- ⑤ オイル漏れや事故のないように、メカニックは特にブレーキ系とオイル周りの安全対策を怠らないでください。

追い越しの方法、追い越される方法

・コース内では、1 周のラップタイムは同じようでも、車両の**排気量の差**や、マシンの**重量の差**、ライダーの**技術の差**等により追い抜き等が発生します。安全に追い越す、追い越される基本的なライダーの動きを記載します。

・コース内では、速い車両が遅い車両に配慮して走行してください。

・監視ポストからフラッグが出される場合があります。

「白黒斜め 2 分割」「ブルーフラッグ」この 2 つは、走行中の速度差に注意喚起したフラッグです。

青旗（ブルーフラッグ）



後方よりペースの速い車両が接近し、追い越される状態にある。

白黒斜分割旗



静止
前方にスロー走行車両があることを示す。
振動
前方のスロー走行車両と走行ラインが重なる可能性を示す。



・スポーツ走行やスクール・走行会では、安全に追い抜くために、長いストレートを使用しましょう。

・ライダーには、目線と死角があります。コーナリング中の無理な追い越しは、控えましょう。

・追い越した後に、追い越した車両の前に割り込まない。視界を塞がない。

重要事項

① 車両トラブル等が発生しスロー走行になってしまった場合

周囲の状況を把握してレコードラインを避けるなどの安全面に最大限の注意を払って走行してください。

後続車に、トラブルが起こっていることを「両手を振る、手を挙げる等」をして必ずアピールする。

- ② コース上は走行のみに使用されるものであり、いかなる場合でも**作業を禁止**する。（転倒修理・エンジンをかける・押しがけする）また、コース際でエンジン始動を試みる例が多く見られます。エンジン再始動をする場合はコースからできるだけ離れ安全なところで試みてください。

③ 車両にトラブルが発生し走行を止める場合

トラブルに気が付いたら走行ラインを外して左右どちらか近い方のセーフティーゾーン（コースから出来るだけ離れている場所）に車両を止める事。転倒した場合はまずライダーが安全な所へ避難してください。特にオイルによる転倒は、後続車も同じ場所で続々と転倒してくる可能性があるので注意してください。そして、できる限り後続車へ知らせる努力をすること。また、安全なタイミングを見て電源と燃料コックをオフにして火災やガソリン漏れを防止する。

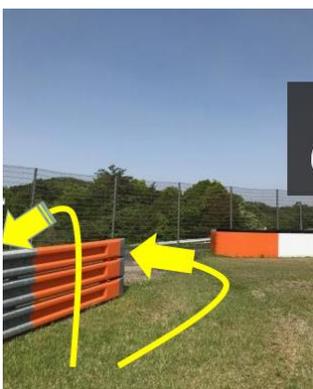
●黒旗	振動表示	不動表示
	車両の番号と共に表示。 表示された番号の車両は次の周回時にピットインしスタッフの指示に従ってください。	
●オレンジディスク旗	振動表示	不動表示
	車両の番号と共に表示。 車両に機械的故障、火災またはその他の問題があり、その事にライダーが明らかに気づいていない場合、または危険と思われる場合に表示。 フラッグを確認したら、ただちにグリーン等の安全な場所に車両を止め、安全を確認後、運転者はガードレール外側に避難してください。	車両の番号と共に表示。 車両に機械的故障、火災またはその他の問題があり、その事にドライバーが明らかに気づいていない場合、または危険と思われる場合に表示。 表示された番号の車両は次の周回時にピットインしてください。 危険な場合は、ただちにグリーン等の安全な場所に車両を止め、安全を確認後、運転者はガードレール外側に避難してください。

※トラブル時はフラッグによる指示も出ます。

④ マシンのトラブルにより自走でピットに戻れない場合

マシンをガードレール沿い、もしくはサービスロード内まで移動させる。

コース内でストップした車両は近いほうのコースサイドにあるサービスロードでレッカー車による回収を待ってください。



※コース内はヘルメットを・・・

自分が転倒した場所には、他のライダーも転倒するかもしれません。

ガードレールの外に出るまではヘルメットを被ったまま行動してください。**ライダーがグリーン内にいる場合は、コース上は「黄旗区間」になり、追い越し禁止等で走行するライダーを拘束します。**ご自身の安全を確保するためにも、できるだけ早くコース外に退避してください。

外へ避難する際は、オレンジマーキングの開口部もしくは、乗り越える方法があります。

転んでしまった時

- ⑤ **スリップダウンした場合**：ライダーは自身の安全を確保するため、転倒場所から退避する。
その際後続車へのアピールと、後続車に注意しながら避難してください。バイクを自身で起こし再スタートできる場合は、後続車に注意しながら安全な地点から再スタートする。
- ⑥ **オーバーラン+グラベルストップした場合**：オーバーラン（コースから脱輪）すると、グラベルベッドにて停止します。
再スタートできる場合は、**マシンから降りてタイヤにかかる荷重を減らし**、半クラッチ等を使用しながらタイヤバリアまで移動します。
カウル内にグラベル材（砂利）などが入ります。タイヤに泥が付く場合があります。タイヤバリア前の緑地帯などを走行してコースに復帰します。復帰の際にコースにまき散らさないよう車両の確認をしてください。
また、グラベル上で転倒し、復帰した場合は、車両各所に小さな砂粒が挟まっている場合があります。コース右側を入口一走行で**ピットに戻り各所の動作点検を実施してください**。
※キャリパーや、ブレーキレバー付け根に小石が挟まり、ブレーキを引きずっていた事例があります。
- ⑦ **オーバーラン グラベル上で停止し走行が継続できない場合**：マシンが移動できる場合は、ガードレールまで、もしくはサービスロードまでマシンを引き込んでください。移動できない場合は、走行するライダーに対し、障害物であるリスクを下げるために、**マシンを倒してから避難します**。ライダーは、ガードレールの外側に避難してください。
- ⑧ **ハイサイドを起こした場合**：コーナリング中に急激なタイヤのグリップの回復により「ハイサイド」となり転倒するアクシデントがあります。転倒し路面に落ちてしまった場合は、落ち着いて周辺（方向）を確認して体を丸めてゴロゴロと転がりコース外に出たほうがより安全とも言える。

メカニカルなアクシデントについて

- ⑨ **アクセルが戻らない場合**：アクセルが戻らず減速できない場合、キルスイッチでエンジンを停止させる。
- ⑩ **ブレーキが効かない場合**：エンジンブレーキと、シフトダウンを併用し減速させる。その際オーバースピードでコーナーに差し掛かり、曲がり切れない場合は自発的にマシンを倒す・車両から飛び降りる等、自身を守る行動に移ってください。
- ⑪ **ガス欠した場合**：**手を挙げて合図し**、マシンがコース上に停止しないように、コース横のグリーンなどにマシンごと避難する。
- ⑫ **ギヤが入らない場合**：クラッチを切り、ブレーキで減速しコースの安全な場所に停止させライダーは、避難する。

- ⑬ **白煙が出た場合**：白煙走行およびオイル漏れ・液体漏れは**後続のライダーのスリップ**を招く恐れがある為、コースから離脱しランオフエリアにマシンを退避させること。また、自身も巻き上がった液体によりスリップし転倒することがある。
- ⑭ ライダーが**避難する際は、コース横断は絶対にしない**ください。
- ⑮ 転倒車両を目撃したら、**転倒したマシンからオイル・ガソリン等が漏れている場合がある**ので、十分注意して走行してください。
- ⑯ コースに復帰する場合、安全な場所にてオイル・ガソリン・冷却水・ブレーキオイル等の漏れが無いか、マシンが走行可能かどうか確認してください。ブレーキ等の重要保安部品の破損がある場合、無理にピットまで戻らないください。
- ⑰ 転倒やコースアウトをするとカウリング内に泥・砂利・草等が入ることがあります。また、タイヤに泥が付着することがありますのでそのままコースに復帰せず芝生部分を走行するなどしてタイヤから泥を落としてください。
- ⑱ コースアウトして復帰する場合、後方の安全を確認したのちにコースに復帰するようにしてください。
- ⑲ コース内では、ガードレールの外に出るまでヘルメットを着用してください。
- ⑳ 走行中の落下物が非常に多く見られます。走行前の点検・増し締めを怠らないようにしてください。

常にスポーツマンとしての態度を保ち、品格を疑われるような言動は厳に慎むようにしてください。

走行時には、アルコール類あるいは薬品（興奮剤等）を使用してはいけません。

*** 走行中、早いライダーは遅いライダーを気遣ってください**

サーキットベストライディング十か条

- ① バイクは下半身で乗ること（ホールド）
- ② 舵角を有効に使うこと（肩、腕に力を入れない）
- ③ バイクはライダーのしている方向に進む（目線が大事）
- ④ コース幅を有効かつ積極的に使うこと
- ⑤ バイクはコーナー立ち上がり重視
- ⑥ スムーズかつメリハリのあるライディングを心がける
- ⑦ バイクに拳動を与えないこと
- ⑧ ブレーキは、ジワーツとかけ、ジワーツと離すこと
- ⑨ シフトダウン時のクラッチ操作は、スタート時よりも半クラッチを使う。
- ⑩ エンジンのパワーバンドを有効に使うこと

オートバイチェックシート

□ガソリン

- ・走行できる量があるか？
- ・キャブレター等から燃料漏れはないか？

□オイル

- ・適量であるか？
- ・エンジンからオイル漏れ、水漏れなどないか？

□タイヤ

- ・タイヤの劣化状態（サーキット走行に適しているか）
- ・タイヤ溝（スリップサインが出ていないか）
- ・エア圧（適正值から1割～2割減）

※メーカーの指定値がある場合はそちらを優先する

□ブレーキ、クラッチ

- ・フルードの量は？
- ・エアークアミしていないか？ホースは適正に取り付けられているか？
- ・ブレーキパッドの残量は？
- ・レバー、ペダルの遊び、緩みはないか？（シフトペダルの緩み要注意）
- ・ブレーキの引きずりがないか？

□チェーン

- ・適正なあそびがあるか？
- ・固着していないか？
- ・給油不足で異音は出ていないか？

□Fフォーク・Rショック

- ・動きは悪くないか？
- ・インナーチューブ、ロッドに曲がりや錆が出ていないか？
- ・オイル漏れはないか？

□その他

- ・オートバイに突起物がないか？
- ・ステアリングにガタがないか？
- ・ハンドルグリップはしっかり接着されているか？
- ・ボルト類の緩みはないか？（レバーガードの脱落多発のため要注意）
- ・改造が適正であるか？
- ・ガラスレンズ類の飛散防止（テーピング）



※走行前に、必ずセルフチェックを行ってください